

ナノチェンジャー
**ハイパー
モモナ**

NANO-CHANGER
HYPER MOMONA

大熊狸喜
表紙イラスト: ひなくま



試し読み版

当ファイルは、モバイル二次元ドリームにて配信された
『ナノチェンジャー ハイパーモモナ』
に基づいて作成しております。

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。



ナノチェンジャー
ハイパー
NANO-CHANGER
HYPER MOMONA
モモナ

大熊狸喜
表紙／ひなくま

登場人物紹介

Characters

とうとうももな
藤堂桃奈

巨乳で恥ずかしがり屋で超天然の眼鏡っ娘。またの姿はナノテクを駆使して悪の組織と闘う変身ヒロイン・ハイパーモモナ。

サソリ怪人

謎の組織・NN団の指揮官の一人。背中に生えた尻尾からナノ毒を注入する。

「きやああんつ寝坊したあつっ！」

時計は既に七時半を大きく過ぎていた。大慌てでベッドから転げ起きる一人の少女。

「もおゝママつたらあ、起こしてくれないんだからあゝっ！」

自分で止めたであろう目覚まし時計に一瞬八つ当たりの涙目を向けると、藤堂桃奈は急いで高等部の制服に着替え始めた。

腰まで届く長い艶黒髪を振り乱し、ワタワタとパジャマのボタンを外す。焦りに頬を上気させて、大きな垂れ目はクリクリとせわしない。細い鼻筋も小さな口も、丸い小顔に綺麗に収まり、黒髪に包まれた愛らしい童顔を見せている。

眠る時には下着を着けない少女がパサッとパジャマを脱ぐと、九十五センチGカップのバストが朝日を浴びてフルンつとこぼれた。

ツンと上を向く白い柔丸肉と、先端でプクンと膨れる可憐な桃色の媚突が、乙女らしい張りのある艶を誇っている。

身長は平均的だが小顔と巨乳のおかげで、やや引き締まったお腹はとても細く感じられた。パジャマの下を脱ぎ降ろすと、ツルンと丸いお尻が窓からの光を受けて、柔らかい陰影を浮かせる。年頃の少女腰は平均以上に発達していて、どこから見ても起伏に恵まれた綺麗なボディラインをしていた。

お尻の頬からムチリとした腿、更にふくらはぎを通って細い足首へと、健康的で無駄肉

のない少女脚線美。ツルンツルンの白肌は朝日を眩しく反射させる。

脇の下にも全身にも一切のむだ毛はなく、桃色の処女媚丘にも産毛すらない。この幼女みたいな秘処だけは、人に言えない桃奈のコンプレックスでもあった。

「えつとお、下着、制服〜っ!」

全裸の肢体に純白の下着を着けながら、セーラー服に身を包む。眼鏡を掛けて台所に向かうと、ママからお弁当とトースト一枚を受け取って玄関へ。

「お早うママ、もう、どうして起こしてくれなかったのお!？」

「『今起きるう』って二回も返事したのは誰かしら？ あら、それよりカバンは?」

「きゃあつ! 部屋あつ!」

忘れたカバンを取りに戻って、長い黒髪の慌て眼鏡っ娘は家を飛び出す。いつものドタバタを終えて、バッテリーをたっぷりと塗ったトーストを啜えながら駆け出してきた少女は、いつもどおり玄関前の道路で転んだ。

「ひつてきまあふ——あきゅっつ!」

転んだ拍子に眼鏡が外れ、バッテリーのパンに顔面から突っ込む。顔を上げて四つん這いになった転倒少女の背後から、ケタケタと複数の笑い声が聞こえた。

パンを剥がして振り返ると、小学生の男の子達がコチラを指さして笑っている。

「——きゃっ、いやあんっ!」

どうやら転んだ拍子にスカートが捲れ、背後からの四つん這い姿を見られてしまっていたようだ。しかも桃奈は、四つん這いになるとお尻を突き出してしまふという変なクセがあった。

年下の中学生男子達やサラリーマン風の人達まで赤い顔をしている処をみると、通勤通学の人達みんなに、恥ずかしい転倒姿を見られてしまったらしい。

人一倍恥ずかしがり屋な少女はスカートのお尻をカバンで押さえ、羞恥で頬を真っ赤に染めて朝の駅へと駆けていった。

電車に乗ってギリギリで学校に着くと、親友の絵里子が校門で待ってくれていた。

「桃奈おっす〜い！」

「エリちゃんごめ〜——きやつ！」

「あ〜ああ、も〜何やって……う！」

詫びながら転ぶ桃奈には慣れっこの絵里子であるが、なぜか今朝は彼女も、そして周りの生徒達も絶句している。

「いたた……？ あつ、きやああつっ！」

周りの視線に、思わずスカートごとお尻を押さえる転倒赤面少女。しかしなぜか、親友の今朝の絶句具合はいつも以上だ。

「この娘は……ボケるにもホドがあるゾ！」

トイレに連れられた桃奈の手に、絵里子持参の換え用下着が手渡される。あきれて睨む親友と掌の下着を見比べる。お尻に触れるスカートの布感に少女は今初めて、自分が下着を穿き忘れていた事に気がついた。

(……じ、じゃあ…今朝転んだ時にみんなが後ろから見ていた四つん這い姿は……)

小学生の男の子や年下の男子中学生、更に校門ではクラスメイトの男子達にまで、四つん這いで突き出された裸お尻を見られてしまったのだ。

「——いやああああんっつ!!」

人一倍恥ずかしがり屋なクセに人の十倍天然ドジな少女は、今朝二回も転んだ風景を思いだし、耳どころか全身真っ赤に染まった。

「昨日また出たんだってね、ウワサのミツバチ娘」

(ギクリ……!)

お昼休み、友人達と屋上でお昼を食べていた桃奈は、思わず箸が止まる。

街に現れる怪しい着ぐるみ軍団と闘っている、ミツバチのコスプレをした謎の少女——。最近噂になっているちよつとした都市伝説だ。着ぐるみ軍団もコスプレ娘も目的が解らないうえ、写メもピンボケで目撃例も少ないから、あくまで楽しまれている噂話である。しかし——。

（ああ、やっぱり見られていたんだ…恥ずかしいな…）

思わず頬が赤くなる眼鏡少女。何を隠そう噂のコスプレ娘とは、ある力で「変身」をした桃奈本人である。

一ヶ月前、学校の帰り道で少女はミツバチにお尻をチクンと刺された。一瞬痛みが走っただけで傷はなかったが、刺したミツバチはパチパチと火花を上げるとボンツと爆発消滅してしまった。

（あの時のロボットミツバチが、私の身体にナノマシンを注入したんだわ…）

体内のナノマシンは少女に信じられない情報を教えた。

おかしな科学者集団がナノマシンを使った怪人達を造り上げ、人間社会で人知れず好き勝手に無責任な実験を繰り返している事。更に怪人の部下達は、誘拐されて操られている一般の人達である事。

そしてそれを知って逃げ出してきたロボットミツバチが、偶然出会った桃奈に闘う力、強化ナノマシンを与えた事、など。

「おかしな実験なんかされて、もしかして友達が酷い目に遭ったりしたらイヤだもん…！」
他人の迷惑も考えず面白半分に実験をする人達なんて、ドジでも正義感の強い桃奈には絶対許せない。

それ以来桃奈はナノマシンの力で変身して、たった一人で悪の軍団と闘っているのだ。

胎内の浅い場所で処女膜が押されると、少女の理性は半狂乱に悲鳴を上げる。しかし決定的な破滅への期待感に、被虐の肉体はフルフルと震え、処女の子宮は更にゴブリと熱蜜をこぼした。そして――。

「犯される瞬間を写してもらいな、そおら！」
つつぷつつつ！

「いっ——っ、痛いいいつつ!!」

ラッシュアワーの駅前、人々が取り囲む視線の中で、モモナの処女は奪われた。黒い牡肉を、綺麗な鮮血がツツウ…と流れる。

「見ろ、あの娘処女だったんだ！」

「オレ動画で撮ってたぜ、ラッキー！」

（と…撮られちゃった…：…ごうかん、されたところを…わたし…もう…：…）

破瓜の痛みを感じた瞬間、少女の理性が断末魔に絶叫し、人々を護る正義の意志がへし折られた。

処女喪失の鈍痛は瞬く間に消え、代わりに胎内を満たされる圧迫感に子宮が震える。太い強姦勃起が更に奥までギムムウツ押し込められると、犯された惨めさまでもが被虐の性感となつて、脳の全てが染め灼かれてゆく。

「あうう…おな、おらか…詰められてえ…：…おかされて…いっばいれふう…：…！」



仮面の少女は、もう抵抗の言葉が出なかった。被虐に溺れる肉体が自らの性癖を認めさせようと、尚も少女の脳を浸食してくる。

戦意の喪失した瞳で強姦に喘ぐモモナの耳に、サソリ怪人が更なる羞恥を告げる。

「犯されていく惨めなエロ姿、みんなに見せてやるぜ、いくぜっ」

ミツバチ少女の腰を持ち上げた強姦サソリが、勃起肉棒の抽送を開始した。

「イ……いくつて——いひゃつきあああつっ！」

ズヂユつずぶじゅつジゅつづくプギゅううつつ！

艶濡れた桃色処女性器が、黒野太い強姦男性器に何度もズプヂユと姦通往復される。

惨めで苦痛なだけの暴行なのに、犯される媚孔は鮮血と一緒に透明な愛液をトロリとこぼ

させる。犯されの仮面少女の白肌は汗を弾けさせ、薄い桃色に染め上げられた。

「やはあつ、熱いっ、お腹の奥うっ頭の中もおっ——犯されてっ蕩けちゃううつつ!!」

突き込みに合わせて上下する巨乳や、濃い桃色に硬化した先端の媚突。

溢れる果汁を纏わされた秘処の肉芽は、教えられる性交感覚にヒクヒクとわななき、犯

される秘処は強姦牡肉を拙く抱きしめる。

強姦で上下に揺すられる仮面少女の肢体に、黒服達の掌が伸びてきた。柔胸が、乳首が、

肉芽が、肛門が、男達の太い指で揉まれ、挟まれ、転がされて弄ばれる。

「ひきつきひいいいっつ——おっおっばいいいっちくびもおっつ、揉んじゃ、転がしちゃあ

っ：クリクリしないで——あはああっ、くひつくひいつ……おしりいつ、指ゴツゴツうつ、イヤあっ、あそこもえちやううつっ!!」

数人で揉まれる左右の胸が肉まんのように暖められて、挟まれ転がされる媚突から生まれる鋭い熱電に背筋まで貫かれる。

ゴツ太い指につつかれ出入りされる肛門は、ジクジクとしたくすぐったさと恥ずかしさで淫熱に灼かれる。指紋のサラつく指で撫でられる肉芽は、まるで神経そのものを弄ばれているかのように、強い甘電を与えられた。

更に首筋や背中、脇や尻頬、腿やヒザに至るまで、男達の指先でくすぐられるモモナ。さわさわ、スリリ、こちよくり、ナデふわり…。

「あはっかつからあつ——コヒヨコヒヨひな——さわらつらいれえつ…ラメにらっひやうつ、ラメにらっひやうからあああつ!!」

全身全てを性感帯にされて、もはや呂律が回らない。ナノ毒で熱せられた少女の身体が、公開強姦と男達の淫指で素肌表面まで淫らに開発されてゆく。

「このまま中に射精してやるぜえつ！」

仮面の少女を完全崩壊へと墮とすため、怪人は強姦の速度を早めた。

ずジュズジュつぎゆぎゆムツぢゆぶるちゆぶふムギユきゆウウつツ!!

激しい上下動にミツバチの触覚が激しく揺れる。身体の揺れと揉み上げられる事で、乳

房全体が更に艶めく。肛門は上下する肉体に合わせ、差し込まれた指をチュプツポと抽送される。

全身を激しく突き上げられる正義の少女は脳まで揺すられ、もはや自意識すら混濁し始めていた。

「ハイパーモモナツ、犯されま〇こを晒して惨めな敗北に堕ちるがいいつ!!」

サソリのペニスが一段太くなり熱を上げると、少女の手足から熱感と重力感が失われてゆく。

「ひやらあああつつつ、あつひいつ、グイグイふといいつつ、おっぱいもお、おひりもおつつ——おかつ、おか、おかはれま〇これえつ、モモラおかはれま〇これいつひやふうううううつつ!!」

意識が蕩かされ、聞こえた言葉をただ繰り返す犯され少女。

「これでお前もお終いだつ喰らええつ!!」

——づどんんつつ!!

先端近くにまで引き抜かれた太い牡肉を、子宮壁に激突される程一気に強く犯し貫かれた瞬間、モモナの脳は眩しすぎる白光で強烈に灼き墮とされた。

「あくぐ——ひひやあああつつつ、おら、おらかあつ、いつひやうううつ、あはあつ、あつあはああああつつつ!!」

全身が硬直し、パアッと桃色に染まる。背中が仰け反り開脚が更に拡がり、汗と恥蜜をパタポタと散らす。全ての感覚が熱子宮だけに集められ、女体がカクカクと痙攣をする。

びゅぶぐぶぶつドぶユつどブゅつ！

ゴブどぶプつびゅぶぶゅうううつ！！

ペニス先端から、密着している子宮壁に向かつて怪人の熱性粘液が激しく放射される。強姦汚液に叩かれながら少女の聖宮は牡汚液で隙間なく満たされ、狭い媚腔から子宮口へと溢れてこぼれる。

「イクっヒくヒくううっ、モモラのおかはれま〇こおおっ——あくひっ、らは、ひゃああつっ——セーエキっ、ヒエーエキびゅーつてえっ……っ、モモラのお、おかはれなからしおま〇こっ、みんなれみてえええっつ！！」

無意識に発した自分の言葉に、肉体は更なる性感で燃えた。仮面少女の子宮は強姦者の堅肉をキュウキュウと締めつけ媚を売る。

犯された秘処に感じる視線に、砕かれた桃奈の自我は更に粉碎されてゆく。

「やった、イクと撮ったぞっ」

「オレなんか、ま〇こドアップだぜっ」

肌を剥かれて秘処を暴かれ、強姦されて達する姿を多くの人達に撮られている——。

（おかされて……なかに……だされて……とられ、ちゃったの……わたし……もう、だめえ……

…のうがとけて、イヤらしい…へんたい…)

惨めな被虐を甘受させられてしまった少女の脳は、もう露出マゾへと墮落してゆく事に抵抗を感じなかった。

更に周りから仮面少女に向かって、黒服達の白濁がビウブブと浴びせかけられる。汗を吸っているスク水は掛けられた精液を薄く吸収し、半透明な薄皮状に淫跡を残す。

仮面が、頬が、唇や舌が、剥き出しの乳房や桃色媚突が、被虐快樂に震える肉芽までが、男達の熱い射精液で包まれ、穢された。

(おかはれて、セーエキかけられてえ…ひゃひんとられて…きもひいいの…わたひ…)
女性として絶対的な破滅の恥辱を味わわされて、倒壊していた少女の理性は遂に、完全に破壊されてしまったのだ。

「これから黒服達が輪姦してやるぜ。イヤらしいお前の本性を、みんなにたつぷりと見てもらえよ」

「あい…おかはれるモモヲを…みんなもみてえ…」

意志も自我も砕かれて、涙をこぼした少女の笑顔は、無垢な輝きを見せていた――。

「あぶ…レロ、みんな撮つてえ…犯ひやれる——あむ…ヒヤらひい、モモヲを…れぶちゅ…かぶん」

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>